

### 第3回総合計画審議会における主な意見等

#### 1 基本構想（案）・政策体系（案）について

- ① 施策の数が第1次総合計画と変わっていないが、総花的にやっているかのように格好だけをつけた形になるのが一番良くない。財政状況が厳しい中では、施策の重点化が必要。
- ② 重点政策（例えば少子高齢化対策、特に子育て支援など）のようなものがあって、その上で7つの政策があるという形にして、濃淡をつけるべき。
- ③ 子育て支援を充実して欲しい。一方で、総合計画と言えども、節約というか、不要な施策・事業はしっかりと削るべき。
- ④ 市民参画会議のような、市民が話し合いながら市政に参加できる機会が増えれば、若い世代も自分の市にもっと関心を持つようになる。政策7「つながりを大切に作るまちをつくる」を濃淡の濃の部分として位置付けて欲しい。
- ⑤ 政策7「つながりを大切に作るまちをつくる」を行政はしっかりと守って欲しい。市民参画会議で出た市民の意見を市役所内でしっかりと共有すべき。
- ⑥ 10年後には4人に1人が高齢者となる中、基本理念の「安心」の中に、高齢者が安心して暮らせるという視点・表現があったほうが良い。（例えば、2つ目の■の文章の『全ての市民が』の前に『高齢者や障害者、その支援者をはじめ』と加えるなど）
- ⑦ ⑥の意見について、『全ての市民が生涯に渡り』の表現自体が、高齢者も含む全ての市民が将来に渡って安心できるようにという趣旨であり、そこに『高齢者をはじめ』等を加えることは、それ以外の若者などはどうなのかということになる。また、3つ目の■では、今回の総合計画上の一つの目玉として子育て支援を打ち出していることから、その関係からも、2つ目の■はそのままの表現のほうが良い。
- ⑧ 基本構想（案）の10ページ、「（1）総合計画に基づく行政運営の推進」の文章の中で、『（総合計画に基づき）清須市のあらゆる取り組みを進めることを行政運営の原則とします』とあるが、“あらゆる”という表現は、何でもかんでもやるというイメージがある。単に『総合計画に基づき行政運営を推進することを原則とする』という意味であれば、誤解のない表現に改めるべき。
- ⑨ 基本構想（案）の12ページ、政策2の文章の中で、『（人口が）2020年をピークとして、減少局面を迎えることを見込んでいます』とあるが、“見込んでいます”という表現はプラスのイメージがあるので、修正すべき。
- ⑩ 基本構想（案）の13ページ、政策5の文章において、商工業に関する表現を工夫できないか。若い世代の呼び込みやリニアの効果を生かすという観点から商工業は重要であるため、もう少し商工業のイメージを強く発信するべき。

#### 2 基本計画策定の考え方について

- ① 施策の「目指す姿」は、計画の終了時にこうなっていたいという姿であるならば、低い姿・目標では意味がないので、しっかりとした姿・目標を描いて欲しい。
- ② 施策ごとのページが非常にわかりやすくなっている。ぜひここに、市民参画会議や市政推進委員アンケート、タウンミーティングなどにおける市民の声の部分を追加して欲しい。
- ③ 市民満足度調査の結果が、総合計画にしっかりと反映されていくのは良い。
- ④ 施策ごとの目指す姿の実現に向けて、1つの施策に複数の課が関係する形になっている。その分、課間の調整が必要になってくると思うので、全体的な視点から、企画担当課のほうでしっかりと調整して欲しい。
- ⑤ 市民満足度調査による評価結果を踏まえて、行政の職員は、その結果に至った理由をしっかりと考察すべき。仮に満足度が低かった場合に、例えば、本来道路をつなげると言っていたのにうまくいかなかったということなのか、あるいは、少ない財源でできる範囲のことはやっているが、市民にきっちりと説明できていないということなのか、など。
- ⑥ 計画を作った後の、実行段階が極めて大事。市民のアンケートで評価をすることも重要な視点であり、進行管理・PDCA管理をしっかりと行うべき。
- ⑦ PDCAサイクルにおける評価は、まずは行政の職員が自分たちの目でしっかりと自己採点すべき。
- ⑧ PDCAサイクルにおいて、行政は異動がある中で、申し送り事項をコメントとしてしっかりと文書化しておくことが重要。
- ⑨ 評価においては数値化できないものも多いため、生の声をきちんと認識することが重要。